

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月17日現在

機関番号：57103
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21520705
 研究課題名（和文） 近世民衆が想う異国像の研究—寛文～享保期の異事奇聞をめぐる—
 研究課題名（英文） The Edo-period Japanese citizens' images of the foreign people and foreign countries: In the context of absurd and unrealistic expressions in Edo literatures
 研究代表者 位田 絵美（INDEN EMI）
 北九州工業高等専門学校・総合科学科・准教授
 研究者番号：30353345

研究成果の概要（和文）：

本研究課題は、寛文～享保期の異事奇聞の分析を通じ、当時の民衆が見た異文化認識を解明することを主要な目的とする。異事奇聞とされる文献は、記述内容の信頼性が低いとして、これまで歴史学や文学の研究対象外とされてきた。しかしながら、本研究では異事奇聞の記述内容や挿絵の考察を通じて、従来の研究で未解明だった民衆の異文化認識や日本人観を新たに明らかにする。

研究成果の概要（英文）：

This research focuses on the Edo literatures called as "IJKIBUN". Those literatures written in Kanbun-Kyoho period have been paid little attentions in this field because the "IJKIBUN" literatures include absurd and unrealistic expressions in the texts and illustrations. However, from such incredible expressions, we can newly provide the Edo-period Japanese citizens' images of the foreign people and foreign countries through the investigation of texts and illustrations.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2010年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2011年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2012年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,600,000 | 780,000 | 3,380,000 |

研究分野：近世文学、日本史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：異文化認識、日本人観、異事奇聞、長崎旧記類、漂流記、史実の物語化

1. 研究開始当初の背景

近年、近世史学研究において異文化認識研究に注目が集まっている。なかでも、為政者側から見た対外認識だけでなく、複数の視点から捉えた認識を分析する必要性が叫ばれている。文学をもとに異文化認識を分析する研究は、少しずつ行われてきたが、その大半は、刊行・翻刻された資料をもとにしている。

それに対し、本研究では、「長崎旧記類」のように、埋もれている未刊・未翻刻の原典資料を発掘し、それをもとに従来看過されてきた新たな異文化認識像を分析・解明する。

その際に着目するのは異事奇聞である。異事奇聞は日野龍夫『江戸人とユートピア』（朝日選書 1977）で、取りあげられた言葉である。日野は、近世後期の文学作品・歌舞伎等

を題材に、民衆が求めたユートピア分析を試み、異事奇聞がその入口であったとする。日野はまた、異事奇聞の民衆への影響力は、江戸の前期と後期に強く發揮されたとする。しかし日野の研究以後は、異事奇聞は、流言蜚語に類するとして主要な研究対象に取りあげられてこなかった。だが、特に寛文～享保期の異事奇聞の中には、異文化接触や異国体験談を書き留めたものが多数散見できる。これらには公文書にはない民衆の多彩かつ重要な声が記述・収録されているが、諸本の整理が難しく内容も多岐に亘るため、従来の先行研究では取りあげられてこなかった。しかし、民衆側から見た異文化認識の解明は、今後の異文化認識研究で重要な論点となることは明らかで、本研究では、特に日野が分析していない寛文～享保期の異事奇聞に焦点を絞って、そこに描かれる異文化認識の解明に重点を置く。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえて、本研究での研究目的は次のとおりである。

(1) 全国に散見する異文化情報を集録した寛文～享保期の異事奇聞をとりあげ、収録記事の内容を確認する。おもに、未翻刻の「長崎旧記類」・「漂流記」・「諸国奇談集」を対象に、埋もれている新資料の発掘に努める。

(2) 未翻刻本の多い異事奇聞を翻刻し、広く研究に活用できるようにする。

(3) 異事奇聞と史実の相違点を比較し、そこに反映された民衆意識を分析する。

(4) 同じく、享保期前後に成立した未翻刻の「長崎旧記類」に共通して見られる独特の日本人の海外活躍記事と、史実を比較し、英雄視された人物像にどのような民衆の意識が反映されているのかを解明する。

(5) 上記の(3)(4)の分析を通じて、江戸期の民衆が見知らぬ世界と対峙した時に、断片的な情報からどのような異国像を創り上げたのか、当時の民衆の想い描いた異文化認識を具体的に検証する。

(6) 上記を踏まえて、これまで流言蜚語として高い評価を得ることがなかった寛文～享保期の異事奇聞の中にある真実を提示し、「長崎旧記類」や「漂流記」の歴史的な意義を確立させる。

3. 研究の方法

寛文～享保期の未翻刻の異事奇聞を素材に、従来の研究では看過されてきた民衆側の異文化認識を抽出・分析する。異事奇聞の一つである「長崎旧記類」や「漂流記」は、為政者を憚って、筆者や書写年等がなく、諸本の整理が困難なケースが多い。また複雑多岐

な内容から研究対象には不向きとされてきた。しかし両者には、公文書にない民衆の多彩かつ重要な声が記述・収録されており、これらを素材とすることで、本研究は研究史上の空白を埋め、寛文～享保期の異事奇聞の歴史的評価を確立し、従来の研究にはなかった新規性のある対外情報を提供することができる。

具体的には、以下の手順で作業を進める。
①新資料の発掘とその翻刻作業を進め、記事内容を熟読する。

②越中哲也ほかの長崎地誌の翻刻研究・石井研堂以来の漂流記翻刻研究等の先行研究による成果を精読して活用する。

③作業①の記事内容と史実と比較して、その相違点・共通点を確認する。

④作業③であげた相違点が挿絵を含め、どのように描かれるのかに注目し、そこに反映された読者層の認識や作者の意図を考察する。

⑤③・④の作業を複数作品で行い、それを比較検討することで、寛文～享保当時の民衆の異文化認識を浮き彫りにする。

⑥作業①～⑤を踏まえ、寛文～享保期の異事奇聞の真価を証明する。また、その成果を関係学会・研究会にて報告し斯学における認知度の向上に努めるとともに、分析結果の精緻化作業を行う。そして最終的には、学術的に高く評価されている『歴史学研究』『歴史評論』『近世初期文芸』等に投稿して発表する。

4. 研究成果

従来の研究では、異事奇聞は流言蜚語に類するとして看過されてきた。本研究はその空白を埋め、これまで網羅できなかった対外情報や民衆意識を、新たに分析・提供するものである。

平成21年度の主要な研究成果は、『近世初期文芸』第26号に掲載されている。以下の項目(A)(B)に平成21年度の研究内容を示す。(A)全国に散見する「長崎旧記類」「漂流物語」等の異事奇聞の調査収集を精力的に行った。史料の翻刻・整理を行い、内容から大まかな系統分類を行った。既に成立年の確定した資料を精読した。

(B)韃靼漂流事件を元に小説化された『異国旅すゞり』(以下、『旅すゞり』)には、口書『韃靼漂流記』にはない挿絵があり、それは、『旅すゞり』を改訂して刊行された『朝鮮物語』の挿絵とも大きく異なる。この挿絵を同時代の他の作品の挿絵や絵画と比較し、『旅すゞり』の挿絵の持つ意味を考察した。

分析の結果、次の3点を明らかにした。
(1)『旅すゞり』の挿絵は、現代の認識から見ると荒唐無稽に思えるが、同時代の他作品の挿絵と比較すると、共通する認識の元に描かれていることが判明した。

(2)『旅すゞり』の挿絵に登場する町人姿の漂流民は、読者の姿を反映しており、読者が漂流民に仮託して異国（当時の民衆の想像世界）を旅する意味合いを有していた。

(3)『旅すゞり』からわずか30～40年後に刊行された『朝鮮物語』の挿絵は、同じ場面を描いても、写実性や実用性が重視され、大きく改訂されている。両者をさらに詳細に比較することで、当時の人々の異文化認識の変遷を確認することができる。

平成22年度の主な研究成果は、第71回民衆思想研究会で発表し、『歴史読本』第55巻11号、『近世初期文芸』第27号に掲載されている。以下、(A)(B)(C)に、その研究内容と成果を示す。

(A)全国に散見する異事奇聞の調査収集を精力的に行った。史料の翻刻・整理をして分類を行った。また翻刻した史料を精読して分析を行った。

(B)中国の百科事典『三才図会』をもとにした、日本の『和漢三才図会』は、従来中国版の焼き直しとされてきた。しかし両者の比較を行うと、『和漢三才図会』には、日本独自の異国情報が増補されていることが判明した。増補情報から、当時の異文化認識を確認し、同書が人々にもたらした影響を考察した。

(C)「長崎旧記類」に収録された島原の乱記事は、同時代の他の文献の記事と記載方法が異なる。記載方法の違いから、当時の長崎の人々の認識を考察した。

分析の結果、次の3点を明らかにした。

(1)「長崎旧記類」の山田右衛門作口書は、切支丹宗徒の残虐さを糊塗する記載方法が採られている。

(2)結果(1)の記載方法は、右衛門作の裏切り理由に、違和感を持たせる効果も有していた。

(3)長崎の人々は、幕府の誤った忠臣右衛門作像を否定するのではなく、「長崎旧記類」に淡々と事実を書き留めることで対抗した。その結果、後世に自らが信じた右衛門作像を伝え残すことで、裏切り者右衛門作への報復を行った。

今後は、為政者の創った忠臣像と民衆が見た人物像の相違がどのように生まれ、伝承されていくのかをさらに検討して行きたい。

平成23年度の主要な研究成果は、第107回福岡日韓フォーラムで発表し、『近世初期文芸』第28号に掲載されている。以下、(1)(2)(3)に、その研究内容と成果を示す。

(1)全国の未翻刻の異事奇聞（「長崎旧記類」「漂流物語」等）の調査収集を精力的に行い、史料の翻刻・整理を行った。また翻刻した史料を精読し、時代背景との関連性を分析した。

(2)韃靼漂流事件をもとに物語化された『異国旅すゞり』『朝鮮物語』には、日本独自の

異国情報がある。しかも異文化情報は、本文だけでなく挿絵にも反映されている。しかし従来の研究では、異本の本文比較は行われたが、挿絵の比較研究は看過されてきた。本研究では『異国旅すゞり』『朝鮮物語』の挿絵分析を行い、両者の相違点・共通点から、当時の読者が異文化をどう認識していたかを解明した。

(3)『嶋原記』は少なくとも3回以上の改版が行われ、多くの先学が諸本比較を行ってきた。一方で、挿絵改訂の分析は、ほとんど手付かずの状況だった。本研究では『嶋原記』3種の挿絵分析を通じて、3種の挿絵の特性と、挿絵が改訂された意図を分析した。

今後は、本文と挿絵の整合性や、同時代の他の小説挿絵との相違・共通点を確認し、挿絵の持つ意味をより深く分析する。また、本文と史実との比較分析を行い、異事奇聞の執筆・編纂意図を明確にしたい。その結果、異事奇聞の編著者や読者が持っていた意識（読者が異文化や自国の文化を見る感覚）を浮き彫りにして、研究史上に新しい知見を提示したい。

平成24年度の主要な研究成果は、第72回「書物・出版と社会変容」研究会で発表し、『近世初期文芸』第29号に掲載されている。以下の(1)(2)(3)に、研究内容と主要な成果を示す。

(1)異事奇聞の調査収集を精力的に行い、史料の分類・整理を行った。また翻刻史料を精読し、本文と挿絵との関連性や、当時の世相をいかに反映しているかを分析した。

(2)島原の乱を描いた仮名草子『島原記』には、先行する写本が多い。写本から仮名草子への本文異同に時代背景が反映していることは周知の事実だが、従来看過されてきた挿絵の変遷にも、当然、世相が投影されている。本研究では、江戸時代を通じて『島原記』の挿絵の変遷を詳細に分析し、挿絵の相違点・共通点から、当時の読者が切支丹や異文化をどう認識していたかを考察した。

(3)仮名草子『大坂物語』は少なくとも18種に及ぶ版が確認される。渡辺守邦氏を始め、多くの先学が諸版整理・本文比較を行ってきた。一方で、挿絵は5回の全面改訂が確認されるが、その分析はほとんど手付かずの状態である。本研究では『大坂物語』5種の内、まず江戸時代初期の2種の挿絵分析を通じて両者の挿絵の特性と、挿絵が改訂された意図を分析した。

異事奇聞の本文と挿絵の整合性を検討する研究は少ない。本研究では、同時代の他の小説挿絵との相違点・共通点を確認し、挿絵のステレオタイプ化やその意味を分析した。この成果は、異事奇聞とその挿絵の研究が、当時の認識（読者が異文化や自国文化を見る

感覚)を知る上で非常に重要な要素を浮き彫りにしており、今後より広範な視点からの研究を喚起するといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 位田絵美, 「整版『大坂物語』の挿絵—寛永無刊記版と正保三年版を中心に—」, 『近世初期文芸』, 査読有, 2012 年, 第 29 号, pp.19-33.
2. 位田絵美, 「『嶋原記』挿絵考 —挿絵改訂の意図—」, 『近世初期文芸』, 査読有, 2011 年, 第 28 号, pp.21-37.
3. 位田絵美, 「世界を知る入門書『和漢三才図会』」, 『歴史読本』, 査読無, 2010 年, 第 55 巻, 第 11 号, pp.188-193.
4. 位田絵美, 「山田右衛門作の心象 —「長崎旧記類」編纂意図の一考察—」, 『近世初期文芸』, 査読有, 2010 年, 第 27 号, pp.38-47.
5. 位田絵美, 「漂流物語の挿絵に表れた異文化認識—『異国旅すゞり』を中心に—」, 『近世初期文芸』, 査読有, 2009 年, 26 号, pp.1-12.

[学会発表] (計 3 件)

1. 位田絵美, 「仮名草子『島原記』の挿絵」, 「書物・出版と社会変容」研究会, 2012 年 4 月 7 日, 一橋大学
2. 位田絵美, 「韃靼漂流記の物語化と挿絵に表れた異文化認識」, 福岡日韓フォーラム, 2011 年 7 月 16 日, 西南学院大学
3. 位田絵美, 「島原の乱と山田右衛門作」, 民衆思想研究会, 2010 年 8 月 28 日, 長崎市立図書館 (長崎県)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

位田 絵美 (INDEN EMI)

研究者番号: 30353345